

地球は愛せても、
人類は愛せても、
それでも、
部長は愛せない。



共生するって、難しい気がする。
野中先生、どう考えていますか。

「自然と共生しよう」とか「誰とも仲良く共生しよう」とか。
そんな風に、共生という言葉は、すごく良い意味で使われていますね。
でもそこには、私自身、どこかうさんくさいものを感じています。
全人類は愛したい。でも、隣のオジサンはキライ。
だから、視野に入らないで…。そう感じるのも普通です。
自分と同質の人たちとだけつき合う方が気楽ですから。
しかし、私たちの生きる世界は、異質の存在と向き合う
力が求められています。それは、けっこうメンドクサイし、タイヘンです。
でも、無理に共感しなくていいのです。理解はできなくても、
シャットアウトせず身近に感じつつづけること。
そこが、共生することの出発点だと思います。

(身体環境共生学科 教授 野中浩一)

和光
3分
大学



現代人間学部

表現学部

経済経営学部

小田急線鶴川駅から

徒歩約15分

<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学